**第３学年１組　道徳学習指導案**

**１　主題名**　日本のよさを知る〔内容項目４－（６） 〕

**２　資料名**　「ぼくのおべんとう」（出典：東京書籍）

**３　主題について**

（１）　ねらいとする価値について

　　　　この主題では、他国との食文化の違いを通して、日本の自然や文化、伝統のよさに気付き、日本を大切にしようとする心情を養うことをねらいとしている。自分の国の特徴を理解し、大切にすることは、今まで築かれてきた日本の自然や文化、伝統を守り、発展させていくために極めて大切なことであることに気付かせる。

　　　　身近に日本の自然や文化、伝統が溢れていることに気付かせ、それらと自分との関わりを理解することで、国を愛する心を育ませることもできる。

　　　　自らの国のことを大切にし、視野を外に広げることで、外国の人々や、文化にも関心が持てるようにしていきたい。

（２）　ねらいにかかわる児童の実態

　　　　本学級の児童は、明るく、何事にも積極的に取り組み、一つのことにみんなで努力する大切さを知っている。そのことは、運動会を経てさらに理解が深まっている。また、授業にも積極的に参加するクラスであり、様々な視点からの発言を取り上げることができる。児童は他の児童の意見を受け止めることができ、他の児童からの意見と自分の意見を融合し、新たな意見、考えを持つこともできる。

　　　　しかし、日常から日本の自然や文化、伝統に触れる機会が減っていることもあり、それらについて深く考えた経験が乏しいと思われる。これから、東京オリンピックが開催されることなど、多文化と接触する機会が増え、日本の自然や文化、伝統を伝える場面が増えると予想されるため、このことについて考える活動が必要である。

よって、この主題を用いて、グループ活動を通し、多面的な考えを交流し、日本の自然や文化、伝統について自分なりの意見を持たせることが必要であると分かった。

（３）　資料について

この資料では、平成２５年に世界遺産になった「和食」を日本の文化として取り上げている。

内容としては、アメリカに転校した「ぼく」が、日本との食文化の違いから、学校へ持って行ったお弁当でからかわれ、友人関係について悩み、１時は日本食に自信を無くしてしまうが、アメリカの児童と日本食を食べることを通して、日本食に自信を持てるようになるという、主人公の移り変わる気持ちを考えさせるものである。

児童にとって慣れ親しんだ「おべんとう」が主体であるため、児童も考えやすく、主人公の「ぼく」に共感しやすく、日本のよさに気付き、国を愛する心の基礎を培うのに適した資料である。

**４　指導計画**

　　　１時間（本時）

**５　本時の学習指導**

（１）　ねらい

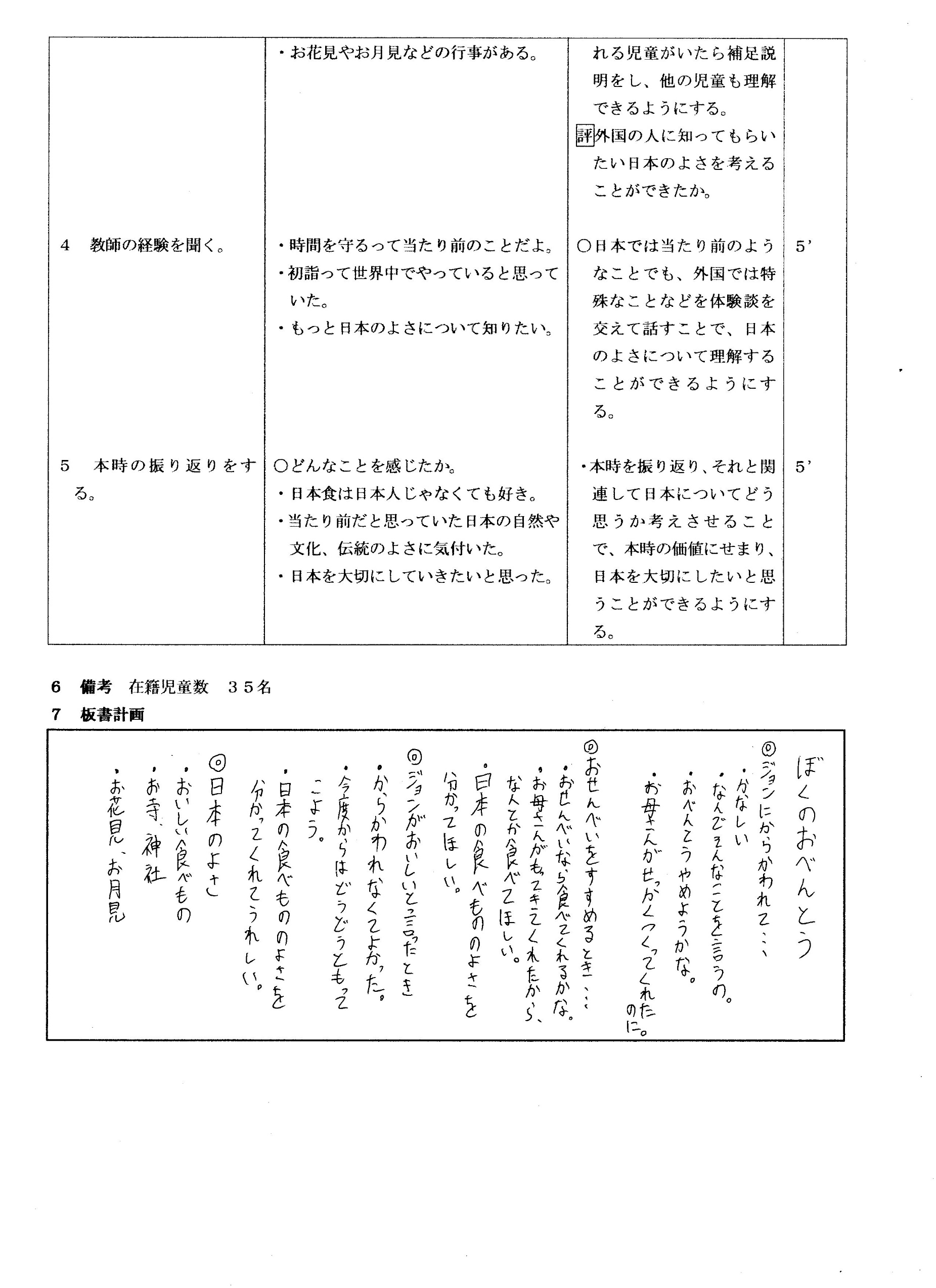
　　　　我が国の文化や伝統のよさに気付き、国を愛し大切にしようとする心情を育てる。

（２）　展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 主な発問と予想される児童の反応 | 教師の支援 | 時間 |
| １　日本のよさを感じた経験についてのアンケートの結果について話し合う。  ２　「ぼくのおべんとう」を読んで話し合う。  場面１  ジョンにからかわれた場面  場面２  ジョンにおせんべいを食べることをすすめた場面  場面３  ジョンがおいしいと言った場面  ３　外国の人に知ってもらいたい日本のよさについて話し合う。  ４　教師の経験を聞く。  ５　本時の振り返りをする。 | ○　アンケートの結果を見てみよう。  ・優しい人が多い。  ・おいしいご飯を食べることができる。  ・きれいなお寺や神社がいっぱいある。  ○ジョンにからかわれたとき、「ぼく」の心の中はどんなだったか。  ・とても悲しい。  ・お弁当を持ってくるのをやめようか。  ・お母さんがせっかく作ってくれたのに。  ○「ぼく」はどんな気持ちでジョンにおせんべいを食べることをすすめたか。  ・おせんべいなら食べてくれるかもしれない。  ・お母さんが持ってきてくれたものだから、なんとか食べてもらいたい。  ・日本の食べ物のよさを分かってもらいたい。  ○ジョンの「おいしい」という言葉を聞いて、「ぼく」はどんな気持ちになったか。  ・今度はからかわれなくてよかった。  ・今度からは堂々とお弁当を持ってこよう。  ・日本の食べ物のよさを分かってくれてうれしい。  ○外国の人に知ってもらいたい日本のよさには、どんなものがあるか。  ・おいしい食べ物がたくさんある。  ・きれいなお寺や神社がある。  ・お花見やお月見などの行事がある。  ・時間を守るって当たり前のことだよ。  ・初詣って世界中でやっていると思っていた。  ・もっと日本のよさについて知りたい。  ○どんなことを感じたか。  ・日本食は日本人じゃなくても好き。  ・当たり前だと思っていた日本の自然や文化、伝統のよさに気付いた。  ・日本を大切にしていきたいと思った。 | ○　事前にアンケートを取り、生活経験から、日本のよさにかかわることを想起させることで、資料ならびにねらいとする価値への導入を図る。  ○ほめられた後にからかわれた「ぼく」の激しく落ち込む気持ちをとらえるようにする。  ○いつもお弁当を作ってくれるお母さんのためにも、日本の食べ物のよさをなんとかジョンに分かってもらいたいと考えた上での行動であることをとらえるようにする。  ○日本の食べ物のよさを分かってもらえた「ぼく」の喜びの気持ちに共感できるようにする。  ○導入の内容と関連させ、さらに広げて考えるようにする。  ○伝統的なものについて触れる児童がいたら補足説明をし、他の児童も理解できるようにする。  評外国の人に知ってもらいたい日本のよさを考えることができたか。  ○日本では当たり前のようなことでも、外国では特殊なことなどを体験談を交えて話すことで、日本のよさについて理解することができるようにする。  ・本時を振り返り、それと関連して日本についてどう思うか考えさせることで、本時の価値にせまり、日本を大切にしたいと思うことができるようにする。 | ５’  ２０’  １０’  ５’  ５’ |

**６　備考**　在籍児童数　３５名

**７　板書計画**

****